

Canon

RF

600mm F11 IS STM

800mm F11 IS STM

使用説明書

JPN

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノン RF600mm F11 IS STM、RF800mm F11 IS STMは、EOS Rシリーズカメラ用の超望遠レンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- STMはStepping Motor（ステッピングモーター）の略称です。

カメラのファームウェアについて

お使いのカメラのファームウェアは最新のバージョンにしてください。ファームウェアの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる可能性のある注意事項などが書いてあります。




基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や障害の発生を防ぐためにお守りください。

 **警告** 死亡や重傷を負う可能性がある内容です。

- レンズを通して、太陽や強い光源を直接見ないでください。失明の原因となります。
- レンズ、またはレンズを付けたカメラを太陽に向けたり、撮影をしたりしないでください。太陽が画面外にあるときや逆光撮影の場合でも、レンズに入った太陽の光が集光し、故障や火災の原因となることがあります。
- レンズキャップを取り付けていないレンズを、日光下に放置しないでください。レンズに入った太陽光が集まり、故障や火災の原因となります。

 **注意** 傷害や、製品以外の物的損害を負う可能性がある内容です。

- 製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。製品に触れると、やけどやけがの原因となります。
- 製品の内部には手を入れないでください。けがの原因となります。
- 三脚または一脚は、十分に強度があるものを使ってレンズの三脚座に取り付けてください。

一般的なご注意

取り扱い上のご注意

- 日光下の車の中など、高温となる場所に製品を放置しないでください。故障の原因となります。
- レンズを寒い場所から暖かい場所に移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かい場所から寒い場所に移すときも、同様にしてください。
- レンズの内部が揺れ動いて見えることがありますが、故障ではなく使用上の問題はありません。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

📷 撮影時のご注意

このレンズでは、DO*レンズを採用しています。DOレンズの特性上、撮影条件によっては光源を中心に色つきのフレアが発生する場合があります。

- 光源が画面内にあるシーンでは、光源を中心としてリング状に色つきのフレアが発生する場合があります。
- 光源が画面外にあるシーンでは、色つきのフレアの一部が画面内に出現する場合があります。撮影シーンに応じて次のような対策を行うと、この現象の軽減や防止ができます。
 - 画面に写り込まない位置に、手のひらや板、傘などを置いて光源を遮る。

* DOは、Diffractive Optics(回折光学素子)の略称です。DOレンズを採用することにより、超望遠レンズで発生しやすい色収差を良好に補正し、優れた描写性能を備えながら、小型・軽量化を達成しています。

一般的なご注意

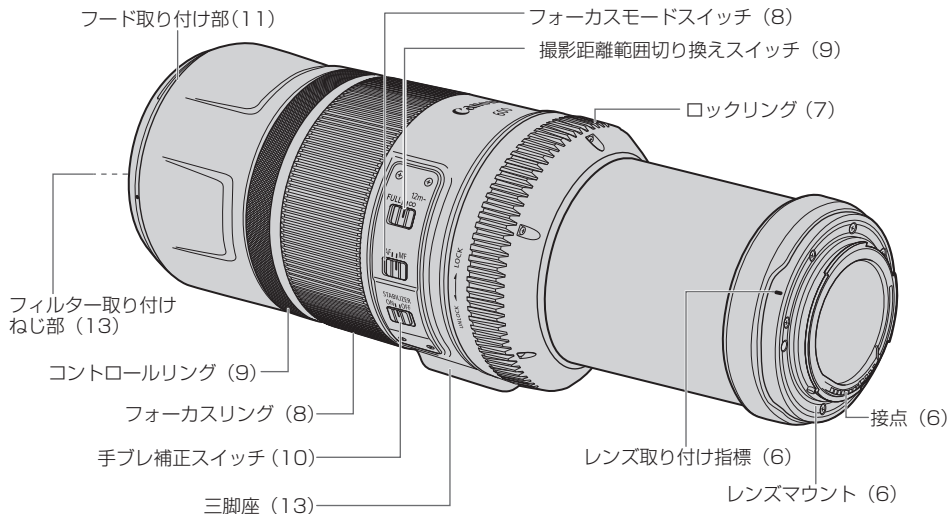
📷 撮影時のご注意

このレンズは絞り数値がF11で固定のため、絞り数値の調整はできません。

露出調整はシャッタースピードとISO感度で調整してください。

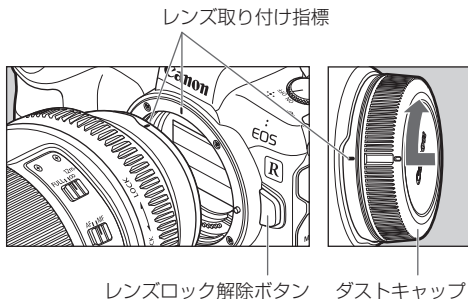
- 各撮影モードを選択時には次のことにご注意ください。
 - ・[P]モードを選択したとき、絞り数値はF11固定のままシャッタースピードが調整されるため、実際には[Av]モードを選択したときと同じ状態になります。
 - ・[Av]モードを選択したとき、絞り数値を調整することはできません。
 - ・[Tv]モードを選択したとき、絞り数値が調整されないため、実際には[M]モードを選択したときと同じ状態になります。
 - ・[V]モードを選択したときは、シャッタースピードとISO感度の設定状況によって、実際には[Av]モードまたは[M]モードを選択したときと同じ状態になります。
- その他撮影するときは次のことにご注意ください。
 - ・絞り数値を変更できないため、絞込みの効果（被写界深度）を調整することはできません。
 - ・手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影するセーフティシフトのときに、絞り数値は調整されません。
 - ・AEB（オートエクスポージャーブラケティング）のとき、絞り数値はF11固定で変わりません。
 - ・スペシャルシーンモードのポートレートモード（EOS RPカメラにおいて）のとき、絞り数値を調整できないため、被写界深度をより浅く調整することはできません。

各部の名称



- 本使用説明書内のイラストは、RF600mm F1.1 IS STMをもとに説明していますが、RF800mm F1.1 IS STMとも操作部は共通です。
- (**) の**部は参照ページを示しています。

1. レンズの取り付け／取り外し



レンズの取り付け方

レンズ側とカメラ側のレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

レンズの取り外し方

カメラのレンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。回転が止まるまで回してから取り外します。

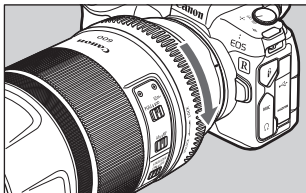
詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。



- レンズの取り付け/取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- レンズを取り外す前に、レンズキャップを取り付けてください。
- レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、レンズマウント側を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。ダストキャップを取り付けるときは、レンズ側とダストキャップ側の取り付け指標を合わせてください。
- 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いたときは、柔らかい布で接点を清掃してください。

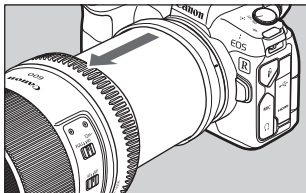
2. 撮影の準備（レンズの伸縮方法）

撮影をするときは、次の手順でレンズ鏡筒を伸ばし固定をして、撮影準備位置にセットしてください。レンズ鏡筒を縮めた状態では、撮影ができません。

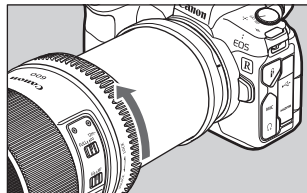


1 ロックリングを「UNLOCK」の方向に「カチッ」と音がする端まで回します。

- ロックリングのクリックは回した両方向の端にあります。



2 レンズ鏡筒を前方へ伸ばします。



3 レンズ鏡筒を伸ばしたまま、ロックリングを「LOCK」の方向に「カチッ」と音がする端まで回します。

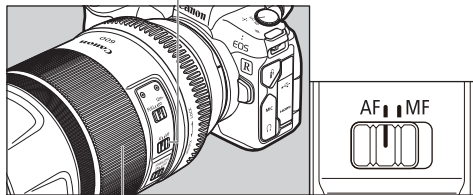
- このときに、レンズ鏡筒が固定されます。



- レンズ鏡筒を伸び縮みさせることができるのは、ロックリングを「UNLOCK」にしたときのみです。
- ロックリングの位置が「UNLOCK」のときは、レンズ鏡筒が不用意に伸び縮みすることがありますのでご注意ください。またこのとき、カメラとレンズをしっかりと保持して伸縮操作をしてください。
- レンズ鏡筒を縮めるときは、同じ手順で今度はレンズ鏡筒を縮めてからロックリングを「LOCK」の方向に「カチッ」と音がする端まで回して固定してください。
- ロックリングは、レンズ鏡筒を端まで伸び縮みさせた状態でのみ回すことができます。

3. フォーカスモードの選択

フォーカスモードスイッチ



フォーカスリング

オートフォーカス(AF)で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。
マニュアルフォーカス(MF)で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます。



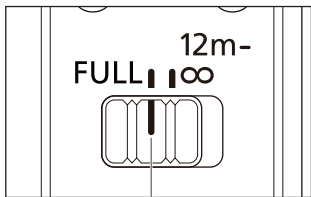
- このレンズに対応させるため、カメラのファームウェアをアップデートしてください。
- アップデートした後のカメラ*の測距可能エリアは、撮像面の横約40%×縦約60%の範囲になります。
また、エクステンダーを装着しても変わりません。
- フォーカスリングを急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。

* 2020年3月現在、EOS R、EOS Ra、EOS RP



- このレンズのフォーカスリングは電子式です。
- カメラのAF動作が [ONE SHOT] のとき、AFのあとシャッターボタン半押し状態で、マニュアルフォーカスができます。(フルタイムマニュアルフォーカス)
ただし、カメラの設定変更が必要です。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

4. 撮影距離範囲の選択



撮影距離範囲切り換えスイッチ

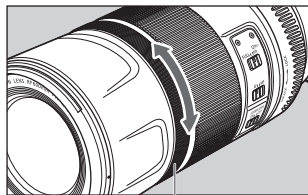
撮影距離範囲をスイッチで選びます。撮影距離に応じて選ぶことで、AF作動時間が短くなります。

撮影距離範囲

レンズ	切換え範囲
RF600mm F11 IS STM	Full (4.5m-∞)
	12m-∞
RF800mm F11 IS STM	Full (6m-∞)
	20m-∞

5. コントロールリング

コントロールリングは、シャッター速度やISO感度の設定など、カメラでよく使う機能を割り当てて使います。



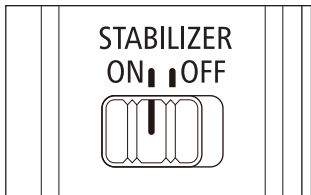
コントロールリング

コントロールリングは回すとクリックがあり、回した量分かるようになっています。コントロールリングの使い方について、詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- コントロールリングの操作音は動画撮影中に録音されることがあります。
- キヤノンサービスセンターで、コントロールリングのクリックを無くすことができます。(有料)

6. 手ブレ補正機能

撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じた手ブレ補正を行います。



手ブレ補正機能を使用するときは、手ブレ補正スイッチをONにします。

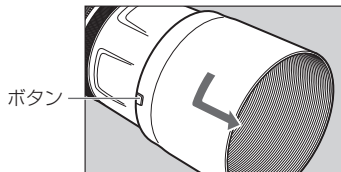
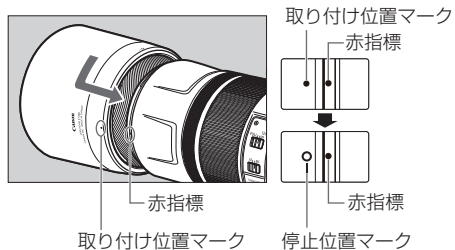
- 手ブレ補正機能を使用しないときはOFFにします。

- 被写体が動くことによって生じるブレは補正できません。
 - 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
 - シャッター方式の設定を変更できるカメラを使用する場合、手ブレ補正効果を十分に発揮させるために、先幕は電子シャッターの使用*をおすすめします。
 - 三脚を使用した場合は、三脚の種類や設置条件および装着するカメラのシャッタースピードの設定などにより、手ブレ補正の効果が十分に得られない場合や、手ブレ補正スイッチをOFFにした方がよい場合があります。
 - 一脚を使った場合も手ブレ補正は働きますが、撮影条件によっては補正効果が十分に得られないことがあります。
- * LVソフト撮影の設定で変更ができるカメラの場合は、初期設定のモード1もしくは、モード2の使用

- 静止した被写体の撮影では、すべての方向の手ブレを補正します。
- 水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。

7. フード（別売）

専用のフードは、不要な光をさえぎるとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



●フードの取り付け方：

フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標を合わせ、フードを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

●フードの取り外し方：

フードの側面にあるボタンを押しながら、フードの取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外します。
収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。



- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元付近を持って回してください。フードの先端付近を持つと変形して回らなくなることがあります。

8. エクステンダー（別売）

エクステンダー RF1.4×およびRF2×を使うと、被写体をより大きく撮影できます。エクステンダーを使った場合のレンズの仕様は次のようになります。

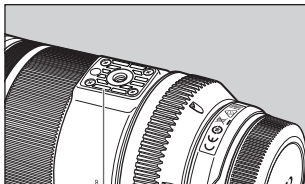
レンズ		RF600mm F11 IS STM		RF800mm F11 IS STM	
エクステンダー		RF1.4×	RF2×	RF1.4×	RF2×
焦点距離 (mm)		840	1200	1120	1600
絞り数値		F16	F22	F16	F22
画角	水平	2° 30′	1° 40′	1° 50′	1° 20′
	垂直	1° 40′	1° 10′	1° 10′	50′
	対角	3°	2°	2° 10′	1° 30′
最大撮影倍率 (倍)		0.19	0.28	0.19	0.28

- レンズにエクステンダーを取り付けた後、カメラを取り付けてください。取り外しは逆の手順で行ってください。先にカメラにエクステンダーを取り付けると誤作動することがあります。
- エクステンダーは2つ以上重ねて使えません。

- エクステンダーを使った場合は、制御性を考慮してAF速度を遅くしています。

9. 三脚座

三脚または一脚は、レンズの三脚座に取り付けます。



三脚座

10. フィルター（別売）

フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けねじ部に取り付けます。



- フィルターは1枚のみ使えます。
- 偏光フィルターはキヤノン円偏光フィルター PL-C Bを使ってください。
- 円偏光フィルターの調整をするときは、フードを取り外してください。

主な仕様

	RF600mm F11 IS STM	RF800mm F11 IS STM
焦点距離・明るさ	600mm F11	800mm F11
レンズ構成	7群10枚	8群11枚
最小絞り	F11	F11
画角	水平3° 30'、垂直2° 20'、対角4° 10'	水平2° 35'、垂直1° 40'、対角3° 5'
最短撮影距離	4.5m	6.0m
最大撮影倍率	0.14倍	0.14倍
画界	約254×169mm	約261×174mm
フィルター径	82mm	95mm
最大径	約93mm	約101.6mm
長さ	約199.5mm (沈胴状態) 約269.5mm (撮影状態)	約281.8mm (沈胴状態) 約351.8mm (撮影状態)
質量	約930g	約1260g
フード	ET-88B (別売)	ET-101 (別売)
レンズキャップ	E-82 II	E-95
ケース	LZ1328 (別売)	LZ1435 (別売)

- レンズの長さはレンズマウント面からレンズ先端までの寸法です。
- 最大径・長さ・質量は本体のみの値です。
- クローズアップレンズは使用可能なサイズがありません。
- 記載のデータはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品の製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の機種への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、お手持ちの消耗品や付属品がご使用いただけなくなることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ

canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター

050-555-90002 (直通)

受付時間 (平日/土) 9:00 ~ 17:00

(12月31日から1月3日は、休ませていただきます。)

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9556をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon